



茨大出身ジャーナリストが集結 「地方紙の現場、未来への思い」

第3回新聞マルシェ 1月13日(水)午後



茨城大学・社会連携センターは、茨城新聞との共催による「新聞マルシェ」

の第3回シンポジウムを新年1月13日(水)午後茨大図書館のライブラリールームで開催する。今回のテーマは、「若手記者が語るー地方新聞の現場、未来への思い」。



シンポ出席のための遠方からの2人を含む茨大出身の若手記者3人に、現場での取材の苦勞、伝える難しさ、スクープの秘話、未来への展望などを縦横無尽に語っていただき、同時に、ジャーナリズムのあり方などについても集中討議する。

午後2時40分からの基調講演には、茨城新聞の小田部卓社長をお招きし、地方新聞の現在を語っていただく段取りとなっている。

パネラーは、茨城新聞の小原瑛平記者(原口ゼミ出身)、秋田魁新報の藤田祥子記者(古賀ゼミ出身)、デーリー東北の田沢奈々記者(古賀ゼミ出身)。社会科学科の長田華子先生にも加わっていただき、地方報道の在り方、地域創生にジャーナリズムはどうかなどについても意見交換する。

新聞マルシェは、茨大生にメディアを身近に感じてもらうため茨大と茨城新聞の提供事業として2014年12月にスタート、茨大図書館の同コーナーには、東北、北関東、沖縄などの地方日刊紙10数紙が毎日届き、ホットな地方情報にアクセスできる体制が整備されている。



シンポジウムと並行して、同日午後1時から、プレ企画「まわしよみ新聞」(同午後1時~3時)をインフォメーションラウンジで用意している。



(以上)